

**平成25年度**

**筑波大学 地域医療教育学講座**

**事業報告書**

筑波大学 医学医療系

地域医療教育学

教授 前野 哲博

准教授 大久保英樹

講師 横谷 省治

講師 阪本 直人

# 1. 神栖済生会病院における診療実績

## 1-1. 総合診療科

### (1) 現状について

神栖市のある鹿行地区は、人口 10 万人対医師数が、88.6 人<sup>1)</sup> (全国平均 237.8 人<sup>2)</sup>) と県内でも少ない地域である。

また、神栖済生会病院でも内科常勤医は少なく、非常勤で循環器内科、神経内科、甲状腺・内分泌外科、呼吸器内科などの医師が、曜日別に診療の支援に訪れている状況で、医師不足の現状は厳しい状態にある。

1. 平成 24 年末の医師・歯科医師・薬剤師調査 2. 平成 24 年厚生労働省データ

### (2) 診療実績について

2009 年年度より、医師不足地域における診療の充実および地域医療実習の効果的運営のため、毎週水曜日午前・午後新たに内科総合診療外来を開設し、阪本医師が診療を開始した。

2010 年度から神栖市による「神栖地域医療研修ステーション設置事業」が始まり、神栖済生会病院に同ステーションが設置され、横谷医師が水曜、木曜に診療を開始した。

それに伴い阪本医師は、月曜・火曜の診療の担当となり、結果、月曜から木曜まで連続して当講座の医師が総合診療科外来を担当することが出来るようになった。

2012 年度には、横谷医師が北茨城市立病院にも医療支援活動を行うことになり、従来の水曜 1 日、木曜半日の体制から木曜 1 日外来へと変更となった。新たに筑波大学総合診療科から週 1 日非常勤講師を派遣して、外来診療を担当した。

2013 年度は、横谷医師が引き続き木曜 1 日外来を 5 月末日まで担当した。また、4 月から 9 月末までは常勤として、10 月から 3 月までは非常勤（週 1 日）として、筑波大学総合診療科から総合診療科医師を 1 名派遣して診療を担当した。

この総合診療科外来の特徴は、糖尿病や高血圧などの生活習慣病をはじめ、うつ病、認知症など日常診療でよく見られ、かつプライマリ・ケア上も重要と思われる疾患が、専門医資格を有する医師により質の高い診療が行われていることである。

また、指導教官が地域医療の現場において医学生に直接指導を行うことで、従来の大学内だけの教育では、地域医療に触れる機会のなかった医学生が、将来の医師像として考える機会を提供することが出来ている。

さらに、各臓器を超えた総合的な診療が行える医療機関が近隣にないことから、近隣医療機関からの紹介や評判で受診を希望する方も多く、これらの症例の中から、血液疾患、甲状腺・内分泌疾患、悪性腫瘍、うつ病を始めとする精神疾患などの疾患も見つかり、院内外の専門医と協同し、鹿行地区の医療を支えている。

## 1-2. 耳鼻咽喉科

### (1) 本講座開設前の状況

神栖市における耳鼻咽喉科常勤医は診療所にただ1人のみであり、他の診療科同様極めて少ないため、神栖済生会病院では以前より日本医科大学より派遣された医師により週2日間（月、木曜日）、非常勤だが耳鼻咽喉科診療を行っていた。

### (2) 本講座開設後の実績

#### < 平成24年度まで >

平成21年（2009年）4月の講座開設により、本講座所属教員が耳鼻咽喉科医であることより、医師不足地域における診療の充実および地域医療実習の効果的運営のため、新たに毎週水曜日に耳鼻科外来を開設し診療と教育にあたっている。

この外来の特徴は、急性中耳炎や急性扁桃炎など、日常診療上よく見られ、かつプライマリ・ケア上も重要と思われる疾患を、指導教官が医学生に直接指導できることにある。

外来患者数は、本講座開設前の平成20年度（2008年度）が3536人だったのに対し、開設後の21年度（2009年度）が4290人、22年度（2010年度）が5286人と増加傾向にあった。

しかし23年度（2011年度）はそれまで医師を派遣してきた日本医科大学耳鼻咽喉科の事情により、4月からは木曜日が、8月からは月曜日が休診となり、当病院の耳鼻科外来は基本的には本講座の教員が行う毎週水曜日午前のみとなった。これにより患者が診察日に殺到し、十分な診療と学生指導が不可能となってしまった。

そこで診療と学生実習の質を維持するために、やむを得ず予約制の外来診療としたため、平成23年（2011年）外来患者数は1991人と減少した。

この状況を改善するため、平成24年度（2012年度）8月から筑波大学耳鼻咽喉科より派遣された医師によって月曜日1日外来枠（予約制）を新たに設け、本講座の教員と合わせ週1.5日の診療にあたり、24年度の外来患者数は2056人と若干増加した。

#### < 平成25年度 >

平成25年（2013年）4月、新居葉子医師（H15年卒、日本耳鼻咽喉科学会認定専門医）が赴任し常勤医師となった。それに伴い、筑波大学耳鼻咽喉科から派遣された医師による月曜日の外来は平成25年3月末をもって終了し、新居医師が月・火・木・金曜日の各午前の外来を、本講座の教員が従前通り水曜日の外来を担当することとなり、週を通しての外来診療が可能となった。

これによって、急性扁頭炎や顔面麻痺などで入院を要する急性疾患への対応、腫瘍疑いへの生検や他院への紹介、入院患者に対する気管切開術などの外科的処置なども可能となり、診療内容が格段に充実し、平成25年度の外来患者数は3975人と著増した。

しかし、喉頭癌の重篤な呼吸困難患者が来院し即日救急搬送するなど耳鼻咽喉科診療の必要性は極めて高く、新居医師と本講座の教員が協力し、学生の教育も行いながら可能な限り対応しているのが現状である。

### (3) 乳幼児難聴専門外来

講座開設初年度の2009年9月からは乳幼児難聴専門外来を新設した。

これは、それまで鹿行地域で殆んど行われていないために水戸および県南地区の医療機関まで紹介されていた乳幼児聴覚検査（ABR、聴性脳幹反応検査、保険診療点数670点）を実施可能とした。

当初本外来への紹介元のほとんどは、乳児健康診断後の神栖市保健センターや千葉県もふくめた周辺医療機関であった。

しかし最近の傾向として、当外来の存在を知った両親の自主的な受療行動や、院内の小児科からの依頼による「言語発達遅滞児」の検査依頼受診数が多くなってきている。

初診患者数の年次推移は、2009年9月から3月までの7ヶ月間で10人だったのに対し、2010年度は17人、2011年度は19人、2012年度は12人、2013年度は15人であった。

今後も乳幼児の健全な言語発達のため、神栖市保健センターで行われている乳幼児検診との緊密な連携が望まれる。

## 2. 地域医療教育

### 2-1. 医学部5年生に対する実習

実施期間：2013年8月26日～2014年3月28日

実施人数：神栖市での地域クリニカル・クラークシップとして計51人が実習

実施概要：医学生3-4人単位で1週間の泊まり込みでの実習

#### (1) 神栖市での実習日程と実施人数

日程	9. 2- 6	9. 16- 20	9. 30- 10. 4	10. 14- 18	10. 28- 11. 1	11. 11- 11. 15	11. 25- 11. 29	12. 9- 12. 13
人数	3	3	3	3	4	3	3	3
日程	12. 23- 12. 27	H26. 1. 6- 1. 10	1. 20- 1. 24	2. 3- 2. 7	2. 17- 2. 21	3. 3- 3. 7	3. 17- 3. 21	
人数	4	3	3	4	4	4	4	

#### (2) 実習スケジュール(一例)

	月	火	水	木	金
午前	大学で オリエンテーション → 神栖市へ移動	訪問看護	外来実習 (耳鼻科)	診療所実習/ 住民体験実習	外来実習 (外科)
午後	外来実習(内科)	ヘルスプロモーション (地域での健康教室)	訪問リハ		乳児健診 → 移動
夕～夜	ヘルスプロモーション 事前打合せ・練習	グループワーク	レポート 作成	レポート作成	大学で振返り

#### \* 外来実習

病院外来・診療所で、医学生自身で問診をとり、診察、評価、方針、カルテ記載までを行った。その後、医師の診療に同席し、ディスカッションを通して、よくある病気の診療に必要な知識・技術を学んだ。

#### \* 産業保健実習

産業医、産業保健師、産業看護師に同行して、産業保健の現場経験を通して企業社員のヘルスプロモーションに関する理解を深めた。

2013年度 実習協力医療機関：新日鐵住金株式会社 鹿島製鐵所

#### \* 神栖市内診療所実習(2010年度より新設)

実習に協力して下さる神栖市内の診療所を訪れ、神栖市民にさらに身近な医療を学んだ。

透析、漢方、往診、グループホームでの健康相談、小児予防接種、糖尿病教室な

ど、それぞれの診療所には特徴があり、地域の人々や院長先生、スタッフの方たちと交流しながら、これらを神栖市内の診療所が行う意義を考える機会とした。

< 2013 年度 実習協力医療機関 (50 音順) >



あきら医院院長  
中島 章先生



かしまなだ診療所医師  
向山 由美先生  
向山 和彦先生



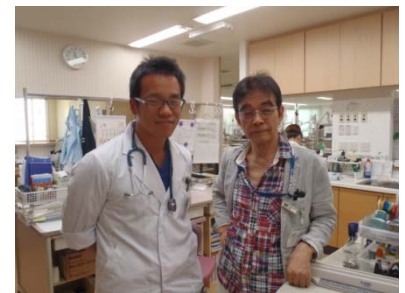
鹿嶋ハートクリニック院長  
黄 恬瑩先生



こいえ産婦人科医院院長  
鯉江 芳行先生  
スタッフの方たち



城之内医院院長  
城之内 宏至先生



にへいなかよしクリニック院長  
二瓶 実先生



ひかりクリニック院長  
田代 勝己先生

## < 診療所実習の感想 >

- ▶ 患者さんとのイベントを経験でき、体だけでなく心の健康を維持する診療所の医師の役割であると感じた。
- ▶ 診療所の先生の向上心の大きさに感銘を受けた。
- ▶ 往診に同行することで、高齢者医療や終末期医療の問題について考える機会となり、とても勉強になった。
- ▶ 診療所だけでなく、薬局や老人保健施設なども見学し、神栖市の現状や問題点を多方面から聞いたことが勉強になった。
- ▶ 普段の実習で行うことのできなかつた皮下注射や坐薬の挿入などの基本的手技を、先生の監督のもとに行わせていただけたことが印象的だった。
- ▶ 地域住民との関わり方を学ぶことができた。
- ▶ 一般的な疾患の診察や処方学ぶことができた。
- ▶ 患者とのコミュニケーションをうまく形成しているのがとても印象に残った。
- ▶ 地域医療の実態や問題点を考えることができた。
- ▶ 体だけでなく心の健康の維持に努めようとしていることに感動した。
- ▶ 地域の人々のコミュニティとして機能していることが印象的だった。
- ▶ 画像検査の予約が診療所からも的確にできることが良かった。
- ▶ 問診中の会話や検査の説明の重要性について再認識できた。
- ▶ 予防教育に力を入れることの大切さを感じた。
- ▶ 外出先で見かけた患者とのやり取りを見て、地域に深く入って医療をしていることを痛感した。
- ▶ 地域で長く診療してきたことで得られた患者との自然なコミュニケーションが新鮮でかつ素敵だった。
- ▶ 患者のニーズにより合わせた医療をしていることがよくわかった。
- ▶ 医師の少ないところでの診療所の大変さがよくわかった。
- ▶ 何代にもわたり患者と良好な関係を気付いていることやかかりつけ医としての充実した機能も持っていることに感銘をうけた。
- ▶ ヘルスプロモーションの鑑だった。
- ▶ 地元の人々の中での診療所の役割を肌で感じる事ができた。
- ▶ 診療所を維持し患者さんに良質な医療を提供するための金銭的な問題を深く感じる事ができた。

### \* 訪問看護実習

訪問看護師に同行して、在宅での看護業務に関する実習を行い、在宅でのケアに必要な知識・技術、配慮点などについて学んだ。

### \* 訪問リハビリ実習

訪問理学療法士に同行して、リハビリの業務に関する実習を行い、在宅での自立促進や廃用症候群予防に必要なリハビリテーションの知識を学んだ。

### \* フィールドワーク（地域診断）実習

この地域の医療問題に対して、何らかの提言をすることを目標にフィールドワー

クの視点を持って取り組む実習。実習期間に触れ合った医療スタッフや住民との交流、そして、この地域の町並みや風土について感じたことを通して、この地域で生活することの強みと弱みを考察した。そして、最終日の振り返りの際にグループ発表を行った。

\* ヘルスプロモーション

地域の現場で、通院患者、小・中学生や住民、企業の社員を対象にした健康教室に協力して行った。一般の方の心へ届くような配慮点や地域住民と交流することで、医療に対する期待を肌で感じる機会を持った。

\* 住民体験実習（2010年度より新設）

地域の農家や商店などで1日仕事を手伝いながら、地元の人と交流した。その中で土地と人を知り、この地域や仕事ならではの健康ニーズをつかむことを目的とした。また、他業種の職場体験は、様々な人々とふれあう医師として、人を理解するための想像力の源とした。

※実習協力事業者：

和菓子製造・販売・・・鹿島製菓株式会社（幸鹿堂、しゅくる・ふるーる）

\* 乳幼児健診

神栖市保健センターで、乳児の測定の介助を行いながら実習した。この実習を通して、乳児の正常発達や年齢相応の身長や体重に関する知識を学んだ。

\* 泊まり込み実習

1週間泊まり込み、地域住民の方と交流する機会を持つことで、医療への期待や不安を肌で感じ、また、周辺を実際に散策しながら医療面だけでなく生活環境にも親しみ、地域への理解を深めた。

\* 最終日の振り返り

毎週金曜夕方、大学でその週の学生全員が集まり、教員と共にこの週に学んだことを踏まえ、地域医療の問題点や今後自らの果たすべき役割について、考えを共有し、深めた。



## 2-2. 医学部1年生に対する実習

実施対象：早期体験医学教育の一環として、医学群1年生全員を対象に行われた。

実施人数：8人（4人単位での1日間の実習がのべ2日間）

実施目的：将来、病院－診療所間でつながりを意識した医療を提供できる医療人になるために、病院と地域で行われている医療の違いを知る第一歩として、地域医療現場の実際を体験した。

実施日程：神栖済生会病院にて2013年7月3日、7月8日実施

### < 実習スケジュール（一例） >

はじめに	10時	11時	12時	13時	14時	15時～
オリエンテーション	受付業務／ 看護業務	外来診療	昼休み	薬剤科 業務	放射線科 業務	神栖の医療 について

### 3. 医学部進学希望者のための高校生医学セミナー

#### 茨城県 高校生のための医学セミナー（医師の学校訪問）

演者・内容	横谷省治「医療の中のサイエンスとアート」
日程	2013年5月10日（金）
学校名（所在地）	土浦日本大学高等学校、土浦日本大学中等教育学校（土浦市）

演者・内容	横谷省治「わたしは家庭医になりたい」 臨床研修医 新田聡：高校生からの自由質問に研修医の立場で回答
日程	2013年6月15日（土）
学校名（所在地）	県立竜ヶ崎第一高等学校（竜ヶ崎市）

演者・内容	横谷省治「医師は病気をどう診ていくか」
日程	2013年6月24日（月）
学校名（所在地）	常総学院高等学校（土浦市）

演者・内容	大久保英樹「頭頸部癌の手術」
日程	2013年8月2日
学校名（所在地）	県立土浦第一高等学校（土浦市）

演者・内容	前野哲博「地域医療の視点 一病気を診ずして病人を診よ、さらに暮らしを診よ一」
日程	2013年9月7日（土）
学校名（所在地）	茨城高等学校（水戸市）

## 4. 筑波大学医学群医学類オープンキャンパスツアー

県内高等学校に在籍する高校生に、医学への興味と茨城県の医療状況への理解を深めてもらうため、県保健福祉部医療対策課医師確保対策室が主催して、筑波大学のオープンキャンパスに合わせ特別に企画された見学会。当講座ではこれに協力して講話を企画・運営した。

実施日： 2013年8月26日（月）

参加者： 62名

内容： 9:30～10:00 オリエンテーション／茨城県の医学部進学支援の概要説明  
（医師確保対策室職員）

10:00～11:30 特別講座『からだからの情報を読み取る～身体診察～』

講師：前野哲博（腱反射など）、横谷省治（脈拍と血圧）

13:00～16:00 医学類オープンキャンパスに参加

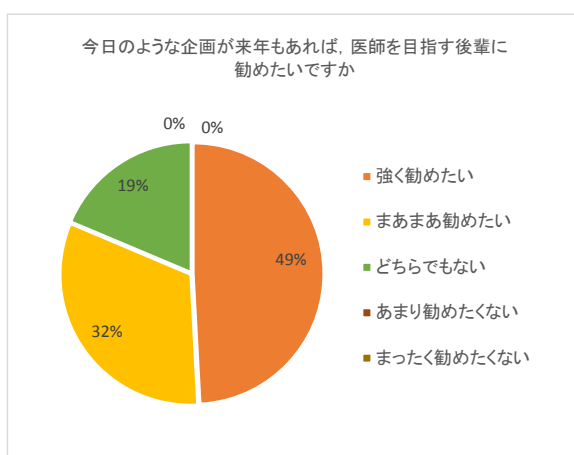
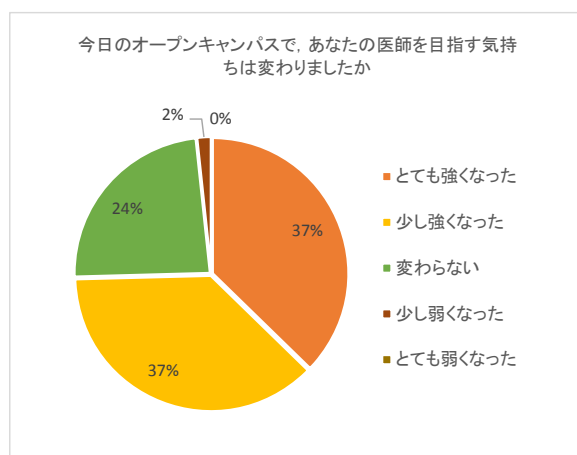
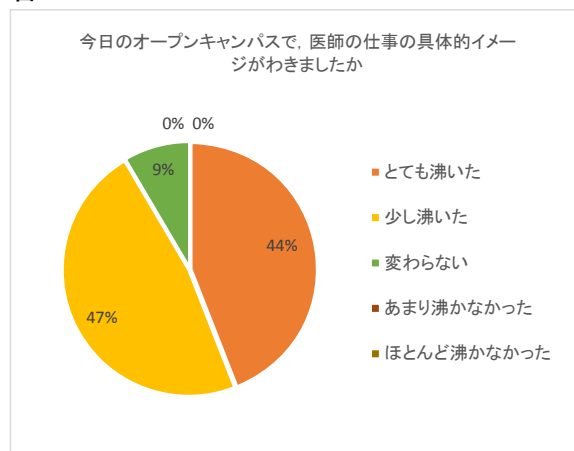
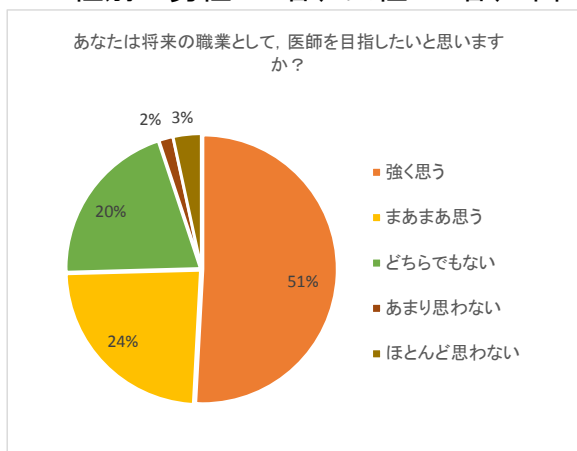
16:00～16:20 アンケート等

### 参加者アンケート結果

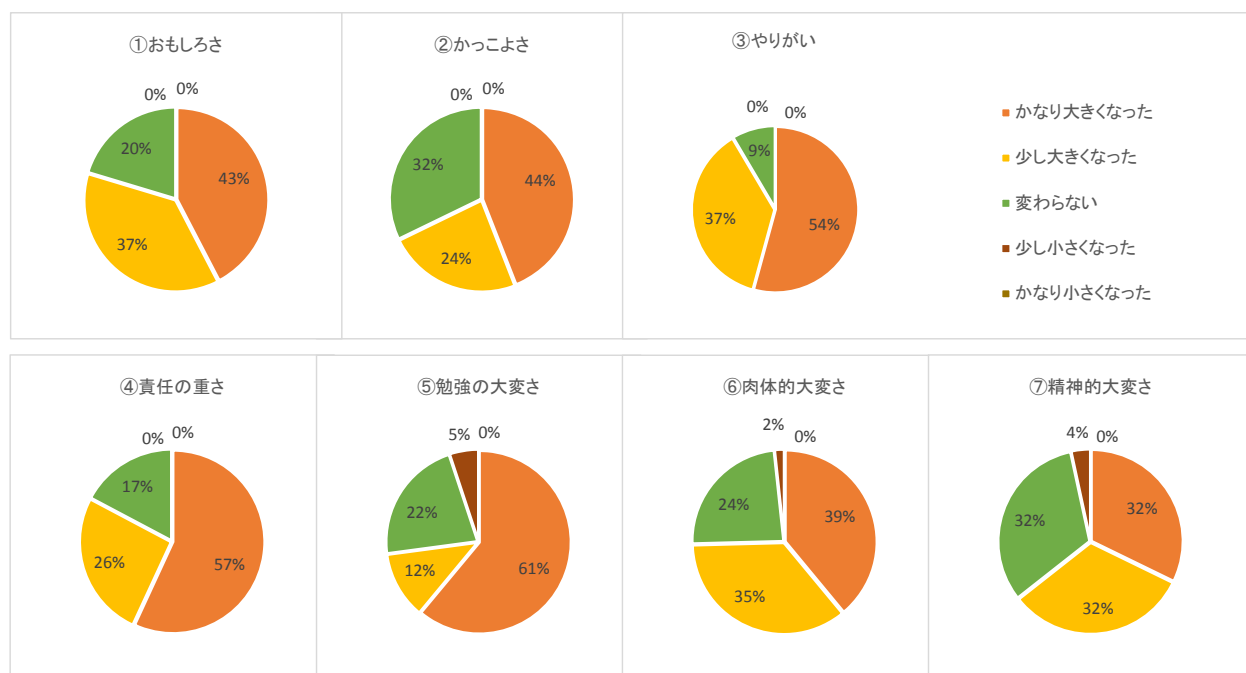
回答 59名（回収率 95.2%）

学年：1年生 47名、2年生 11名、3年生 1名

性別：男性 17名、女性 40名、未回答 2名



## 今日のオープンキャンパスで、医師のイメージがどのように変わりましたか



## 今日のオープンキャンパスで良かったことは何ですか（自由記載、抜粋）

- ▶ 勉強に関すること以外の話も聞けたことです
- ▶ 講演がおもしろかったこと。
- ▶ 在学生のコメントが聞けた。
- ▶ 学生生活が詳しく分かった。医者になりたいという気持ちが少し湧いた気がする。
- ▶ 本物の聴診器を体験できたこと
- ▶ 筑波大学医学群・医学類がどういうところなのか。どんな取り組みを行っているのかよく知ることができた。
- ▶ 自分の目標を確認できたこと。
- ▶ 説明が分かりやすかった。
- ▶ 実技が面白かった。
- ▶ 医師の人とはコミュニケーションやその他のスキルが全て要求される仕事だと思った。
- ▶ 講演＋実技での体験。
- ▶ 医学類の大学の様子やその後の進路が分かった。
- ▶ 先生方が笑顔だったということ。
- ▶ 学類生，教授の説明（プレゼンテーション）。午前中の講演＋実技

## 5. 地域枠医学生対象セミナー

日時：2月2日（日）

場所：筑波大学医学系棟 4B101

参加者：1年生 3人 2年生 3人 3年生 4人 4年生 2人 5年生 1人

前野先生，大久保先生，阪本先生

目的：専門医制度の把握及び県庁による修学生のための制度の説明

内容：

- 1部：前野先生による「総合診療の大切さ」という話及び専門医制度の説明
- 2部：医療対策課による修学資金制度の説明、修学生による質問への回答
- 3部：大久保先生、阪本先生によるキャリア形成の話及び修学生同士によるディスカッション

参加者の感想：

- ▶ 学生同士の意見交換では、将来働こうと思っている地域や診療科などについて遠慮のない意見交換を行うことができた。高学年の先輩に、希望の診療科をいつごろ決めたのかなどの、かねてから気になっていた質問をすることもでき、実のある意見交換になったと思う。  
これから学年が上がっていくにつれて今よりも具体的に将来を考えていかなければならなくなるので、今回のような勉強会にはこれからも積極的に参加していき、地域医療の現状や自分の将来を決める判断材料となる知識をしっかりと得ていきたいと思う。  
(一年生感想より抜粋)
- ▶ 今回の地域枠勉強会では、地域枠の契約内容やキャリアパス形成の確認、地域枠人数の増員などのお知らせなどがあり、その中でも地域枠の人数が増えるというのがうれしかった。やはり修学生の集いなどで集まったり、将来茨城で地域医療をしたりする仲間が多い方が良いと思う。後半の話し合いでは、皆がそれぞれ違った意見を持っていてとても興味深かった。私は将来茨城の地域医療を総合診療医として支えていこうと思っているが、他の人は総合診療医だけでなく色々な診療科を考えており、それぞれ進みたい診療科の立場から意見を言っていたため色々な見方を知ることが出来た。  
(2年生感想)
- ▶ 今回の地域枠の勉強会は、県庁の方々から改めて制度の説明があり、こちらから質問をすることもできたので、将来設計の上で大変参考になりました。特に新しい専門医制度については今のところ地域枠のセミナーや勉強会などでしか聞く機会がない上、地域枠の場合は義務年限との兼ね合いもあるので、県庁の方々に説明して頂けて有難かったです。前野先生のお話も、M2の授業で聞いた部分もありましたが、地域で働く上では重要なことだと思いました。ディスカッションでは、地域枠の他のの方々の考え方や価値観に触れることが出来ました。それぞれ人生において何に重点を置くかは違いますし、将来どのような医師になりたいか、どのような人生を送りたいか考えるのに遅くても早すぎることはないのだと思います。特に私たちの場合は義務年限

があり、さらにその先に茨城県内の医師不足地域で働くことを期待されているので、人によっては自分の希望と妥協しなければならない点もあり、なかなか難しいことなのだと感じました。

(2年生感想より抜粋)

文責：3年 磯崎 光宏



## 6. ヘルスプロモーション（健康教育・講演）

### 6-1. 小・中学校対象 喫煙予防教室

演者・内容	阪本直人、横谷省治  『タバコについて』  60分の授業を15校実施 中学生：計783名、小学生：計872名、合計：1,655名受講した。 地域実習中の医学5年生とともに、下記の内容で実施。 1. タバコの害 2. 依存性 3. 「同級生・先輩から勧められても断る」練習（WHO ライフ・スキル理論を用いて）		
日程	2013年6月～2014年3月、計15回		
場所	神栖第3中学校	6月18日	第1学年 83名
	柳川小学校	9月3日	第5学年27名、6学年29名
	土合小学校	10月1日	第6学年 56名
	神栖第1中学校	10月18日	第1学年 108名
	太田小学校	10月29日	第5学年 38名
	大野原小学校	11月12日	第6学年 92名
(いずれも 神栖市)	波崎第3中学校	11月26日	第1学年 105名
	波崎第2中学校	12月10日	第2学年 203名
	深芝小学校	1月21日	第5学年108名、6学年112名
	波崎第4中学校	2月4日	第1学年 93名
	横瀬小学校	2月6日	第6学年 106名
	波崎第1中学校	2月18日	第1学年87名、2学年104名
	大野原西小学校	2月20日	第6学年 73名
	息栖小学校	2月20日	第6学年 118名
	植松小学校	3月4日	第6学年 110名

## 6-2. 住民対象 健康教室「健診結果のミカタ」

対象・内容	<p>住民健診受診者、および一般からの希望者向け 1回1.5時間、計3回開催。</p> <p>健診で行われる採血やエコーなどの各項目について、異常所見があった場合、どのような病気が考えられるのかについて、具体的な疾患を例に挙げて、解説した。また、病院での精密検査では、どんな診療が行われるのかについて紹介した。最後に、アルコール、塩分、カロリーの上手なコントロール方法、そして、運動の具体的な実施方法（回数、負荷、配慮点など）について実践を交えて紹介した。</p>
日程	2013年8月20日（火）午後、9月26日（木）午前、10月18日（金）午前
場所	<p>8月20日 うずもコミュニティーセンター</p> <p>9月26日 神栖市保健センター</p> <p>10月18日 はさき生涯学習センター</p>

## 6-3. 小学校対象 食育教室

演者・内容	<p>阪本直人、横谷省治、堤円香、医学生3年生</p> <p>『おやつについて考えよう！』</p> <p>医学生3年生が、食育やプレゼンテーションをテーマにした1週間の実習を受けます。その後、地域医療教育学教員とともに下記の内容で実施。</p>			
実施期間	2013年7月～2014年2月 1回60分の授業を5校実施			
場所と日程	前野小学校	12月10日	第6学年	25名
	葛城小学校	12月18日	第5学年	10名
	松代小学校	1月17日	第5学年	83名
	大曾根小学校	2月20日	第5学年	121名
	東小学校	2月21日	第6学年	90名



#### 6-4. 多職種教育 教員免許更新講習

演者・内容	前野哲博、横谷省治、阪本直人、ほか  『臨床医が語る心と身体の健康～予防からケアまで～』 臨床医が、健康診断の読み方や、心のケア、風邪の予防、手洗いの実習、喫煙予防教育などについて、様々な研究結果や最新の情報をふまえてわかりやすく解説。
対象者	幼・小・中・高・中等・特別支援学校教諭、養護教諭
日程	2013年6月8日（土） 9時～16時50分（認定試験40分含む）
場所	筑波キャンパス（つくば市）
主催	筑波大学（文部科学省からの委託）

#### 6-5. 他職種教育 医療系学生対象

演者・内容	阪本直人  健康科学概論『健康科学の実践④：総合医の役割』を担当 全2回 スポーツ健康科学部（スポーツ科学科、健康学科・スポーツマネジメント学科）
日程	2013年6月 90分を2回
場所	千葉県印西市
主催	順天堂大学 さくらキャンパス

## 7. 研究業績, 著作等

### 7-1. 研究

#### (1) 原著

堤円香, 中村明澄, 前野貴美, 高屋敷明由美, 阪本直人, 横谷省治, 前野哲博: 小中学生への喫煙予防教育と父母の行動変容との関連 子供の言葉は親を変えるか. 日本プライマリ・ケア連合学会誌 36(4): 291-296, 2013

#### 要旨

目的: 小中学生への喫煙予防教育と父母の行動変容との関連を調査した。

方法: 茨城県神栖市の小中学校 7 校で喫煙予防教育を実施し、受講した生徒に学んだことを家で話すよう促した。1 ヶ月後の生徒の親を対象に自記式アンケート調査を行い、子供からタバコの話聞いたか、この1 ヶ月のタバコに対する新たな行動変容の有無とその内容などを調査した。

結果: 1109 家庭に 2 枚ずつ調査票を配付し 1427 名の有効回答を得た。子供から話を聞いたのは 794 名 (55.6%)、行動変容があったのは 271 名 (19.0%) であった。具体的な内容は、禁煙した、本数を減らす、子供の前で吸わないなどが挙げられた。行動変容の有無は、子供から話を聞いたことに有意に関連していた (オッズ比 3.3 (95%CI 2.4-4.6))。

結論: 小中学生に対する喫煙予防教育の実施は、本人のみならず父母のタバコに対する行動変容につながる可能性が示唆された。

#### (2) 学会発表

梶川奈月, 阪本直人, 堤円香, 前野貴美, 横谷省治, 前野哲博: 地域住民の Common Disease に関する理解の現状調査. 第 4 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 仙台, 5 月, 2013

梶川奈月, 阪本直人, 堤円香, 前野貴美, 横谷省治, 前野哲博: かぜにおける受診に対する態度と知識との関連. 第 4 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 仙台, 5 月, 2013

阪本直人, 梶川奈月, 堤円香, 前野貴美, 横谷省治, 前野哲博: 地域住民が健康に疑問を持った際に相談する相手、および情報源の重視傾向に関する現状調査. 第 4 回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会, 仙台, 5 月, 2013

## 7-2. 著作等

### < 健康増進資料 >

阪本直人：気軽に！ストレッチ&マーシャル・アーツエクササイズ  
～ウエスト引き締め効果バッチリ編。2014年2月



冊子



ポスター